

しみじみ

多田龍介

◆ 目次

決壊する	5
マスク	6
ファンファン	8
しあわせ	10
無事を願う	12
だがしかし	14
ある日の保健所	16
悲惨三歌	18
世界の仕組み	20
メディア	22
自分史観	24

逆張り	26
処世術	28
不惑から遠く	30
年末に	32
悲観五首	34
Wanted	36
なすがまま	38
しみじみ	40
ひまだむ	42
対機説法	43
あとがき	45

決壊する

擦り切れてしまう
寄り切られてしまう
消えてしまう

それで残るものは
何でしょうか

始末書は
まだ見ぬ人が
戸惑うばかり

マスク

マスクしてマスクしないでマスクして

どっちかなもう聞かないぞドツチかな

我奴隸、自己判断とはご無体な

何てこと、君も頭がないなんて

暴漢に襲われなければなりません



ファンファン

君は何かを成し遂げたかと
聞かれて

成し遂げたさっ
ゲームでレベル90さっ

それは頑張ったねえ
成し遂げなくたって、いいよね

仕事は何もかも途中で
召されてしまう

それも人生
これも人生

楽しいって
思えるならいいじゃん

しあわせ

入院していた時、思った

家に帰れて

部屋で眠れたら

どれほど幸せだろうと

今、幸せだ

父がいて

母がいて

姉がいて

犬がいて

暮らせる

後のことは
わからない
暗いだろう
今、明るい
楽しみたい

無事を願う

ちらほらいなくなる人を見かける

ネット落ちというだけか

このご時世でもある

無事を願うばかりだ

神、一人でも多く戻り来たりて欲しいのぞ、と
預言書にある通りだ

しかし毎朝なりなんなり

今朝はホットケーキよくみたいなことを

発信し続けるというのも

これは一つ、厳しい話だよ

踊り続けろと

もちろん黙ってかまわない

無事を願うばかりだ

だがしかし

おかしいな

おかしなこのために

多く人が亡くなつて

おかしなことがまかり通る

ということ

おかしなことでもついていく

ということ

わかりました

社会的立場のある人ほど

Noと言えなかつたに違いない

社会的立場がなくてよかつた

と、お菓子を食べながら

思うのであった

ある日の保健所

もういいことしか言えなくなつて
皆さんのピリつき様

ツッコむことなど、不可能ッ
己を守るため

大本営発表はこうして……
実は全然よくないんですよ

言つたほうがいいよ
溜めこむとよくないよ

言つても屠殺とぎょうしないつて
約束してくれるかっ



悲惨三歌

僕の怒りの延命処置が
それでも終わりへ突き進む
自ら進んで突き進む
姿を見てはやり切れぬ
思いばかりを募らせて

苦情の住民
苦渋の決断
事情がわからん
幸薄い僕らは
幸ある声がたまらない

増税とか無理筋に見える

どうせいつちゅうのか

同棲する？

グループホームで

僕と握手、イヤ

世界の仕組み

Tさんが僕の子犬がいなくなったと歌った時
僕はその切ないメロディーに心打たれながらも
僕がその子犬の位置にいることに気づかなかった

やがて子犬は狼になり

たくさん羊を襲い

そして作物の実る仕組みを知った

今、元子犬、もとい狼の僕

老賢者の輝きのかんばせで

世界の仕組みを見る

うむ、わからん



メディア

ロシアのお年寄りにはテレビしか見ないから
簡単に洗脳されちゃうのよ

と、テレビを見ながら母の言う

ウクライナで凍えるおばあさんに

フランネルの寝間着あげたい

もう持つてるんじゃないかな

事はそういったレベルの話ではない

しかしお家にいるのが一番だと

ロシア兵に言っただけ

僕ら志持ち立つ

折れてお家に帰る

ダメじゃないですか

消える、消えてしまう、命の灯
画面は煌々こわこわと明るい
部分だけで作る未来は

自分史観

メンヘラはお断りだと書き込みが。そしてあなたの恋は実らず

偏見と差別ととてもやりきれぬ、虚しい悲しい話たちかな

そしてこれ、義憤に駆られ戦争を起こしたとして無理からぬこと

そうなんだ、義憤に駆られていたなんて。そうかどうかは知りませんが

実にそう、9・11からしてそうなのだ。世界の不幸の情動面は



逆張り

本を読め

本はいいぞ

学びがある

と言われると

読みたくなくなる

マンガを読むな

たわいもないぞ

バカになる

と言われると

読みたくなる

スマホなら
何はなくとも
見えています
素直です
大丈夫です

処世術

なんでもできちゃう

わけもなく

それだつていいじゃないか

できないことは

ひとにまかせよう

僕から見たら

働いている人は

皆、超人に見える

可愛いだけで

万難を排す猫

ワイは虎じゃ

出るところ出れば

即戦力じゃ

と、出てこないでくれ

と言われ

不惑から遠く

三十歳に見えないっ (キヤッ

ほう、じゃ何歳に見えたんだい

四十に見えたか、老け顔か

更年期、かくのごとし

性獣や四十九歳妻子持ち、二十四歳女と不倫

意外とめちやくちやにできてるんですね
人間っていうのは

そうだよ、だから決まりがあるんだけど
決まりだからで律している人間は

アドリブに弱いんだ

もっと内側に根付いた道徳を
育んでいかなきゃな

年末に

クリスマスイブにブイブイ言わせてる

岸田くんうっちゃり覚えた感のある

傾国を憂うもいいが先を見よ

願ったり叶ったりなの？ デッドエン

では君は余剰で優しいだけなのか



悲観五首

お肉が高い

国が憎い

そうなんだ

かかってる

吊るし上げろー

もう一度敗戦

してほしい

僕

G H Q

やってあげるから

もう一度開国

してほしい

僕

黒船

やっつてあげるから

安心させるため

書くのかい

外をござんなさい

どこに安心が

あります？

感心させるため

書くのかい

もうどうに

感心しました

呆れるほどに

Wanted

父は本をいつも何か読んでいる
これは高尚だから読むというより
暇つぶしなんだと思う

今、僕らはスマホを四六時中見ている
父の年の人らにスマホはないから
本がその役割だったのだ

それがいつの間にもやら権威になり
推奨され、^{すた}廃れていったと

スマホは禁止される向きも強い
が、時が下れば知的推奨に
なっているかもしれない

下ればもうないか
しかしいつだって禁止されるのは
人が過度に求めるものなのだ

なすがまま

やる気ナスのまままで続く僕ら秋

九理あり一理はどこか休肝日

あゝトマトジュースかかったヒマワリに

書いたもの残ると言うが欠いたもの

そのあとはどうなっちゃうの興味あり



しみじみ

世界の対立構造は

専制主義と民主主義

なのだそう

この国は

専制主義だったかのう

鬱になるのは

バカだと聞いた

外をござん

浮かれる要素が

どこにあります

僕がいるから
大丈夫なんだと
僕がいるのは
木が立っている
くらの物なのに

ひまだむ

長考す棋士の顔して編むメニュー

取って食う蛇の顔して見る5ちゃん

詰みました？ 思いつつなお探す奇手

ウケている。多様性これ多用せい

こだわりの加味のみそ汁、狂気あり

対機説法

あきらめるなよ、男だろとの言葉が目には飛び込み
何かと思ったら育毛剤の広告だった

そのあとに

あきらめてしまえば、癒しようのない不幸も和らぐ
との古代ローマの詩人、ホラティウスの言葉が
僕のタイムラインには流れていた

シユール、シユール過ぎ

あとがき

この詩集は二〇二二年十月から二〇二三年一月にかけてネットに投稿したものをまとめ、未発表の書き下ろし四編を加えて編まれた。

日記を書くほどの根気はないのだが、たまにぼつぼつと零す詩を日記代わりに集めておく。苦しい日々だ。といつてもずっと苦しかったのかもしれない。人はどんなことにも慣れてしまうが、同族に対する残虐行為など、慣れてはいけないものもある。

初めて詩を投稿できた時の喜びや、自分で本を作れた時の興奮を忘れずにいられたら、楽しいだろうと思う。しかしそこまで鮮度がいいと疲れてしまいそうだとも。ハレはケになり、技術として身につく。

また見てくれる人にとっては、いつも初めてである。ずさんにならずに書いて行きたい。きつと日々の雑事に対処できずに何もかも投げやりになってしまふこともあるのだ。老いや病やいろいろなで。丁寧な生きたい。

丁寧でなくても楽しめる詩集になっていればいいと思う。読んでくれた方に感謝を込めて。

二〇二三年一月三十一日

多田龍介

しみじみ



令和五年二月一日 初版発行

著者 多田 龍介
発行者 多田 龍介
発行所 明水工房

©Ryusuke TADA 2023

